2027年3月期　第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕(非連結)

2026年11月11日

上 場 会 社 名　　カバー株式会社　　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　　5253　　URL https://cover-corp.com
代　　表　　者　（役職名）代表取締役社長CEO　（氏名）谷郷　元昭
問合せ先責任者　（役職名）取締役CFO　（氏名）金子　陽亮　(TEL) 03(6280)4036

半期報告書提出予定日　2026年11月11日　配当支払開始予定日　―
決算補足説明資料作成の有無　：有
決算説明会開催の有無　：有　（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第2四半期(中間期)の業績(2026年4月1日～2026年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期中間期	20,981	△3.6	3,598	35.0	3,520	31.7	2,439	22.0
2026年3月期中間期	21,754	27.2	2,666	△20.9	2,674	△19.0	1,999	△5.7

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期中間期	37.85	37.05
2026年3月期中間期	30.46	29.82

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期中間期	31,438	19,403	61.7
2026年3月期	34,908	19,964	57.2

（参考）自己資本　2027年3月期中間期　19,402百万円　2026年3月期　19,963百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2027年3月期	－	0.00			
2027年3月期(予想)			－	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 2027年3月期の業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,350	4.1	7,000	△0.8	7,000	△1.0	4,900	62.4	74.64

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無
2. 予想1株当たり当期純利益は、予想当期純利益を2026年3月期末の発行済普通株式数(自己株式除く)で除して算出しております。

※　注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

(3) 発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期中間期	65,650,100株	2026年3月期	65,650,100株
②　期末自己株式数	2027年3月期中間期	1,879,784株	2026年3月期	84株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年3月期中間期	64,450,632株	2026年3月期中間期	65,650,016株

※　第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 …… 2
(1) 当中間会計期間の経営成績の概況 …… 2
(2) 財政状態に関する説明 …… 4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
2. 中間財務諸表及び主な注記 …… 5
(1) 中間貸借対照表 …… 5
(2) 中間損益計算書 …… 7
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 …… 8
(4) 中間財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9

1.経営成績等の概況

(1) 当中間会計期間の経営成績の概況

当社は、ミッションとして「つくろう。世界が愛するカルチャーを。」を掲げ、日本発のエンターテインメント・カルチャーを作り出し世界中のユーザーに広めていくことにより、日本のユニークな強みであるアニメ、ゲームといった文化に関わるクリエイターの活動の場を増やしていくことを目指しております。

当中間会計期間におきましては、2026年9月にプロダクション9周年を迎え、2027年の10周年に向けたプロジェクトを始動いたしました。当社は10周年を中長期的な成長ロードマップにおける重要なマイルストーンと位置づけ、ブランドの刷新やTVアニメの制作をはじめとするメディアミックス施策、新たなサービスの展開などを通じて、新規ファン層の開拓と既存ファンのエンゲージメント強化を図ってまいります。

売上面におきましては、第2四半期に全世界同時リリースしたスマートフォンゲーム「hololive Dreams」の関連収益が期初の想定を大幅に上回って推移したことにより、ライセンス/タイアップ分野の収益が前年同期を大きく上回りました。一方、過年度との比較においては、前年同期に大型の音楽作品のリリースや公演が集中したことの反動、卒業タレントの関連商品売上の剥落、在庫リスクの低減に向けた商品構成の見直しなどにより、配信/コンテンツ、ライブ/イベントおよびマーチャンダイジング分野の収益が前年同期を下回りました。これらの結果、当中間会計期間の売上高は前年同期比で減収となりましたが、第2四半期会計期間においては前年同期比で増収に転じました。

利益面におきましては、高い収益性を有するゲーム関連事業の拡大によりセールスミックスが改善し、限界利益率が上昇するなど、IPを軸とした事業拡大が進展いたしました。また、当社は現在を持続的な成長に向けた基盤強化を進める投資期と位置づけ、タレント価値の継続的な創出を支える事業基盤および組織体制の整備を進めておりますが、全社的な人員の最適配置により販売費及び一般管理費の増加を抑制したことから、当中間会計期間の営業利益は前年同期を上回りました。

サービス分野別の業績は、以下のとおりです。

配信/コンテンツ分野におきましては、タレント構成やコミュニティ環境の変化を背景に配信関連指標の軟化が続いたものの、第2四半期には「hololive Dreams」関連の配信や、プロダクション10周年に向けたカウントダウン番組「hololive Next」の配信開始、新規ユニット「アソビ★まわり隊！」のデビューなどにより、チャンネル登録者の純増が前年同期比で拡大いたしました。また、中長期的なプロダクションの成長に向け、第1四半期に次世代タレント育成プロジェクト「mekPark」を始動し、新たに2ユニットが活動を開始いたしました。さらに、タレントの視点に立ったオペレーション改善を担う体制の整備をはじめ、タレントの創作環境の改善に向けた総合的な取り組みが進展いたしました。一方で、前年同期に大型の音楽作品のリリースが集中したことの反動により、音楽収益が前年同期を下回りました。その結果、同分野の売上高は4,099百万円(前年同期比8.4%減)となりました。

ライブ/イベント分野におきましては、第1四半期の秘密結社holoX初のオフラインライブや獅白ぼたん主催のゲームイベント「獅白杯」初のオフライン開催に加え、第2四半期には米国ロサンゼルスでの『hololive English 4th Concert -Serendipity-』や桃鈴ねね初のソロライブ『桃鈴ねね 1st Live 「花咲く＊ねねねねねねねね超開花！」』を開催するなど、国内外で所属タレントによるライブコンサートやイベントを複数開催いたしました。また、過去に開催したライブコンサートに係る映像商品の販売も寄与いたしましたが、前年同期に大型公演が集中したことの反動により、前年同期比では減収となりました。その結果、同分野の売上高は2,032百万円(前年同期比13.7%減)となりました。

マーチャンダイジング分野におきましては、ホロライブプロダクションの公式店舗「hololive production official shop in Harajuku」の出店など、新規および既存のファン層への接点拡大と販売チャネルの多様化に取り組みました。また、トレーディングカード分野においては、第2四半期にエクストラブースターおよびブースターパックの新商品を発売し、売上が拡大いたしました。一方で、過年度との比較においては、卒業タレントの関連商品売上の剥落に加え、在庫リスクの低減に向けた一部定番商品の絞り込み、ならびにEC商品の製造・販売オペレーションの移行過程における商品の欠品や品揃え不足による機会損失などから、前年同期比では減収となりました。その結果、同分野の売上高は9,985百万円(前年同期比14.5%減)となりました。

ライセンス/タイアップ分野におきましては、上述のスマートフォンゲーム「hololive Dreams」の関連収益が期初の想定を大幅に上回って推移したことに加え、国内大型代理店との関係深化や、北米、東アジア地域を中心とした海外クライアントとのタイアップ案件の取引拡大が売上を牽引いたしました。その結果、同分野の売上高は4,863百万円(前年同期比49.9%増)となりました。

以上の結果、当中間会計期間における売上高は20,981百万円(前年同期比3.6%減)、営業利益は3,598百万円(前年同期比35.0%増)、経常利益は3,520百万円(前年同期比31.7%増)、中間純利益は2,439百万円(前年同期比22.0%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間会計期間末における資産合計は、前事業年度末より3,470百万円減少し、31,438百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少3,481百万円、繰延税金資産の減少809百万円及びソフトウエア勘定を中心とする無形固定資産の増加1,098百万円によるものであります。

(負債)

当中間会計期間末における負債合計は、前事業年度末より2,909百万円減少し、12,034百万円となりました。これは主に、買掛金の減少1,344百万円、未払法人税等の減少1,069百万円によるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産合計は、前事業年度末より560百万円減少し、19,403百万円となりました。これは、自己株式取得による減少2,999百万円及び利益剰余金の増加2,439百万円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末に比べ3,481百万円減少し、12,527百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において営業活動により獲得した資金は1,405百万円(前年同期は2,953百万円の収入)となりました。これは主に、増加要因として、税引前中間純利益3,520百万円の計上、売上債権の減少による収入743百万円があった一方で、減少要因として、仕入債務の減少による支出1,344百万円、法人税等の支払による支出1,297百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において投資活動により支出した資金は1,883百万円(前年同期は1,391百万円の支出)となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出1,516百万円、有形固定資産の取得による支出224百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間において財務活動により支出した資金は2,999百万円(前年同期は発生なし)となりました。これは、自己株式の取得による支出2,999百万円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年3月期の業績見通しにつきましては、2026年9月24日に第2四半期（累計）の業績予想を修正いたしましたが、通期業績予想につきましては2026年5月14日に発表した予想から変更はございません。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

（単位：百万円）

	前事業年度 (2026年3月31日)	当中間会計期間 (2026年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,008	12,527
売掛金	5,890	5,146
商品	958	950
前払費用	564	528
未収入金	1,403	1,769
その他	317	442
貸倒引当金	△33	△27
流動資産合計	25,108	21,338
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	2,317	2,241
工具、器具及び備品（純額）	1,659	1,605
建設仮勘定	－	40
有形固定資産合計	3,977	3,887
無形固定資産		
特許権	72	77
商標権	118	114
ソフトウエア	838	2,353
ソフトウエア仮勘定	968	551
無形固定資産合計	1,998	3,096
投資その他の資産		
関係会社株式	146	146
投資有価証券	77	77
出資金	113	143
差入保証金	1,141	1,186
関係会社長期貸付金	20	69
繰延税金資産	2,231	1,421
その他	94	70
投資その他の資産合計	3,824	3,115
固定資産合計	9,799	10,100
資産合計	34,908	31,438

（単位：百万円）

	前事業年度 (2026年3月31日)	当中間会計期間 (2026年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,750	1,406
未払金	703	1,009
未払費用	556	478
未払法人税等	1,357	288
前受金	6,758	6,958
預り金	141	166
賞与引当金	545	423
諸外国間接税引当金	287	242
その他	811	24
流動負債合計	13,913	10,998
固定負債		
資産除去債務	1,031	1,036
固定負債合計	1,031	1,036
負債合計	14,944	12,034
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,096	1,096
資本剰余金		
資本準備金	1,093	1,093
資本剰余金合計	1,093	1,093
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	17,772	20,212
利益剰余金合計	17,772	20,212
自己株式	△0	△3,000
株主資本合計	19,963	19,402
新株予約権	0	0
純資産合計	19,964	19,403
負債純資産合計	34,908	31,438

(2) 中間損益計算書

（単位：百万円）

	前中間会計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）	当中間会計期間 （自 2026年4月1日 至 2026年9月30日）
売上高	21,754	20,981
売上原価	11,180	9,428
売上総利益	10,573	11,552
販売費及び一般管理費	7,907	7,953
営業利益	2,666	3,598
営業外収益		
受取利息	10	21
受取和解金	0	10
その他	7	4
営業外収益合計	18	36
営業外費用		
為替差損	9	23
出資金運用損	－	17
支払和解金	－	62
その他	0	10
営業外費用合計	10	113
経常利益	2,674	3,520
特別損失		
固定資産除却損	36	0
特別損失合計	36	0
税引前中間純利益	2,637	3,520
法人税、住民税及び事業税	740	271
法人税等調整額	△102	809
法人税等合計	638	1,080
中間純利益	1,999	2,439

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間会計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年9月30日）	当中間会計期間 （自 2026年4月1日 至 2026年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	2,637	3,520
減価償却費	712	500
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△5	△6
賞与引当金の増減額（△は減少）	△104	△121
受取利息	△10	△21
固定資産除却損	36	0
売上債権の増減額（△は増加）	1,179	743
棚卸資産の増減額（△は増加）	562	7
未収入金の増減額（△は増加）	215	△365
仕入債務の増減額（△は減少）	△705	△1,344
未払費用の増減額（△は減少）	61	△77
未払金の増減額（△は減少）	△268	546
前受金の増減額（△は減少）	14	199
その他	70	△899
小計	4,396	2,681
利息の受取額	10	21
法人税等の支払額	△1,453	△1,297
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,953	1,405
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△229	△224
無形固定資産の取得による支出	△1,094	△1,516
貸付けによる支出	－	△49
出資金の払込による支出	△50	△47
差入保証金の差入による支出	△20	△44
差入保証金の回収による収入	2	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,391	△1,883
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	－	△2,999
財務活動によるキャッシュ・フロー	－	△2,999
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	△3
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,558	△3,481
現金及び現金同等物の期首残高	11,498	16,008
現金及び現金同等物の中間期末残高	13,056	12,527

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2026年5月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,879,700株の取得を行っております。

この結果、当中間会計期間において、自己株式が2,999百万円増加し、当中間会計期間末において、自己株式が3,000百万円となっております。